

年頭所感:

今は新たな乱世の夜明けであると思います。

マイコンブームの始まりから、直近のおよそ 30 年間は、ほとんど私のコンピュータ事業歴に重なります。この時代は、市民参加型の社会の完成に向けた大きなうねりが続きました。このうねりはようやく一つの高みに到達し、収束に向かいつつあります。WEB2.0 もこのうねりの名残りの表れに過ぎず、小さな余波に終わるに違いありません。市民参加型の社会のために、市民が自発的に情報を収集し、市民が自ら情報を加工し、市民が自由に情報発信できるように、高度情報化が進んだと私は考えております。

すでに流行は過去のものとなったが、ロングテイル (long tail) や CGM (Customer Generated Media) は、市民参加型の社会の完成を象徴するものです。これらを含む市民参加型の社会の完成の上に、新たな世界史的なムーブメントがすでに始まっています。人類社会の成立に向けた大きなうねりです。

今は、まず生理的欲求に密着した食と環境と医療と健康と介護と・・・に自助組織が成立し、生活者が同時に経営と労働に参加する事態<sup>①</sup> になっています。社会のいたるところで労働者がそのまま経営する新しい時代のライフスタイルが始まっています。労働と経営はますます融合し、資本だけが実業からますます遊離している状況です。

電子的ネット共同体は国境を越え、国民国家は国民買収政策 (福祉や補助金) をやめて市民の自立支援に転じ、軍事力強化を誇示し合って大資本の国外流出を引止めようと躍起になっています。市民は自衛のために、暴力の危険を自ら引き受ける行動に決起することになるでしょう。戦力と暴力は流動性を高めるために、あちこちで衝突する不安定な時代が出現すると思われます。いわゆる乱世です。この乱世が半ばをすぎたころには、ネットを介した世界規模の消産直接取引なども本格的に始まり、優勢を強めて国際経済も大きな変化を遂げることになるでしょう。国境を越えた人と人の経済の小さな無数の結びつきは、やがてくる地球国家または人類社会の確固たる基盤となるでしょう。

乱世はリーダーシップの時代でもあります。さまざまなカリスマも活躍するはずですが、乱世は引込み思案では乗り切れません。乱世はやりたがり屋のトップ引きが生き残るでしょう。強烈なやりたがり情勢をじっとうかがう我慢を備えれば勝機は広がります。粘り腰は身を助けます。後ろ向きの弱音と行動は強者の餌食になります。前向きで、なんとしてもやり遂げようとする意思があり、その手段を探す工夫の勘と努力があれば必ず勝てるだろうと確信します。

まずは、何はともあれ機会をつぶさないことです。機会あれば一つ一つ、なんとしても成功させる努力と工夫が身を助けるとおもうのです。一つの機会を逃

さなければ次の機会も回ってきます。

後ろ向きの者は学ぶ機会もありません。ましてや成功すれば得るものが大きいのです。何よりもチャレンジする者には次のチャンスもその次のチャンスも与えられます。チャレンジしない者には次の良いチャンスはありません。

まさに、乱世は始まりを告げています。今は私たちに機会あり。私たちは永遠の挑戦者です。

いっそうの蛮勇をふるうことを、新年にあたり決意し、表明するものです。

2007.01.01

代表取締役 飯箸泰宏 記